

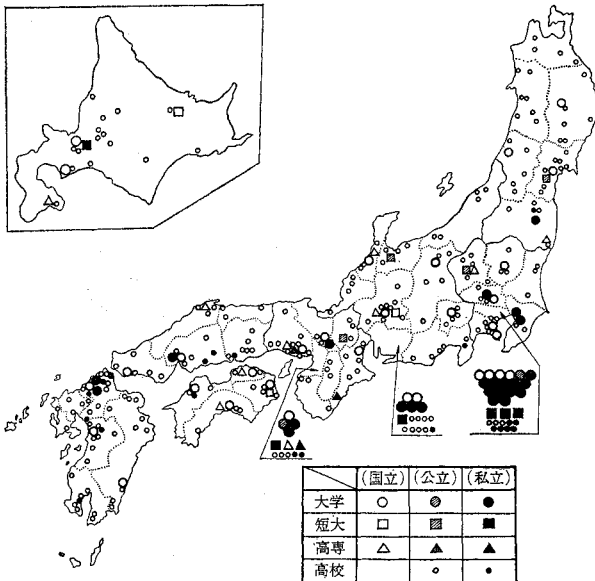
昭和41年度土木学会誌掲載懸賞論文の審査を終わって

土木学会誌編集委員長 増岡 康治

「土木技術者問題」は、本学会においても各職域においても多大の関心事であることは論をまちませんが、「土木技術者教育に何を望むか」という一般の部、および「土木技術者としての抱負」という学生の部の両部門あわせて20余編の応募を受けました。編集委員会で選抜された審査委員(増岡、松本、宮田、浅沼、吉田、服部の各編集委員)により11月11日、8時間を費して個々の論文の内容を検討しました。応募者の名前は最後まで審査員には知らさないよう配慮し、公平を期しました。何分にも幅の広い課題でしたので、最初は審査委員は自らの頭を整理するのに苦慮しましたが、次第に意見交換をしてゆくうちにほぼ一致した意見になり、大差のない雰囲気での討議が進み、最終的につぎの論文が選ばれました。いずれの部門も一席を得なかったことは、この課題は審査委員も今までに相当の議論を過去に経験し現在も考えている方が多く、その範ちゅうを出なかったことに原因するかも知れませんが、二席を2名にしておのおの特色を発表すべきであるとの意見にまとまりました。以下最終結果とその内容について各審査委員が述べられた意見を大づかみにご紹介します。

(1) 課題 A 一般の部 「土木技術者に何を望むか」入賞者
一席 なし

図-1 土木技術者教育機関(学校)の分布図



- (学会誌掲載) 二席 高岡宣善君 (正会員 京都大学助教授, 工業教員養成所)
- (学会誌掲載) 二席 横山義雄君 (正会員 大林組, スタッフ, 一橋大学留学中)
- 三席 天津宏宏君 (正会員 神戸市立工業高等専門学校講師)
- 三席 田部正利君 (正会員 都城工業高等専門学校, 宮崎大学講師)

(2) 課題 B 学生の部 「土木技術者としての抱負」入賞者
一席, 二席 なし
三席 中島 勝君 (学生会員 中央大学理工学部土木工学科4年)

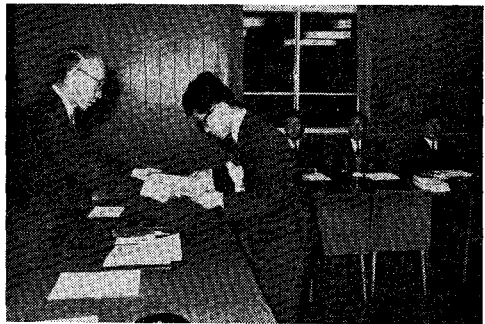
(3) 内容についての意見

① A・二席 高岡宣善君
松尾欣二教授の開発原論に引き込まれすぎた感があるが、土木工学、土木工事に対する認識について誠実な考え方のもとで学外実習等の提案を行ない、ドイツ留学の体験を適度に日本における教育に活かしたい熱情にあふれている。

② B・二席 横山義雄君
施工技術者は今や日本においても最大の土木技術者群であり、そのあり方は多くの土木界の注目の的になっている現在、筆者は多くの文献を参考にしながら自らの建設業界の体験を入れ、また現在までの留学期間中において触れた力作である。しかし迫りに少し欠けているのが惜しい。

③ A・三席 天津宏宏君/田部正利君
天津君の論文はやや散文的で他論の引用が多すぎる。また一般概念的な教育論に終始し技術教育という具体性に欠けるうらみがある。

田部君の論文は非常にそつなくまとめてあり、力作だと思わ



篠原会長より賞状を受ける高岡君

れるが、手を広げすぎて不消化な論旨があるのが気にかかる。

④ B・三席 中島 勝君
勉強は良くしており、真面目に問題突っ込んでいます。土木は平和な時代においてのみその能力を発揮すべき……という結びも学生らしく健康で済ませたい。

なお、おしくも選にはもれたが、岸本 進君(神戸高专)の論文にあつて、図-1に示す図は力作であり参考になる点も多いのでここに示した。